

技能評価システム移転促進事業(SESPP) は日本式技能評価のノウハウを移転するため、ベトナム、カンボジア、インドネシアを対象に日本から専門家を講師として派遣し、セミナーや技能評価トライアルを実施しています。事業の運営事務局を株式会社 J T B 霞が関事業部にて受託しております。

日本式の技能評価の活用促進が図れるよう、J-Skills Newsでは、事業の取組など、お知らせしています。(年4回発行)

□ベトナム、カンボジアからの6名が日本でシーケンス制御の本邦研修に参加

ベトナム、カンボジア政府の人材開発部局から各1名、訓練機関で電機分野の技能評価担当・人材養成指導者の4名、計6名が11月12日に来日し、2週間にわたるシーケンス制御の実務研修に参加しました。

実習を中心に、シーケンス制御に係る実技試験のオリジナル課題を作成しました。最終日には受講生たちで作ったオリジナル課題のデモンストレーションが行われ、見事に動作しました。

今回、実技をメインに担当いただいた職業能力開発総合大学の安原先生からは「4日間実技の講師を担当し、うち2日間は日本の実技試験問題の作成演習を行い、カンボジア・ベトナム両国からオリジナル課題の作成まで実施した。帰国後に皆さんの言葉で制度の確立に向け、ここで勉強したことを広めて頂きたい。」と総評をいただきました。



安原先生の指導風景



カンボジアチームの実演を鋭い眼差しで見る専門家

□本邦研修：愛知での技能五輪も視察

本邦研修のプログラムの一環として、愛知国際展示場で行われた技能五輪の視察も行いました。受講者の皆さんは開会式を見学し、翌日の競技大会では、4職種（電工、工場電気設備、電子機器組立、メカトロニクス）の電気系職種について、競技主査から競技概要に関する説明を受けました。使用機器、準備の段取りなどについても熱心に聴取しました。

参加者からは、「優勝者の仕上げた最終的な作品を見ることができたこと、選手の方々の作業態度については非常に勉強になった」との感想を聞くことができました。



真剣な眼差しで聞き入る研修員

□日本の技能検定について（本邦研修の講義より、SESPP事務局技術顧問・稲川 文夫氏）

日本の技能検定は、労働者の技能習得意欲を高めること、技能に対する社会の評価を高め、労働者の技能と地位の向上を図ることを目的に1960年にスタートしました。今日では、毎年約80万人が受検するメジャーな資格の一つになっています。

■技能検定の等級

等級は上位から特級、1級及び単一等級、2級、3級があり、試験のレベルは次のようになっています。

特級：管理者または監督者が通常有すべき技能及びこれに関する知識

1級及び単一等級：上級技能者（10年以上の経験者）が通常有すべき技能及びこれに関する知識

2級：中級技能者（5年以上の経験者）が通常有すべき技能及びこれに関する知識

3級：初級技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識

とりわけ3級は、工業高校生等を対象に改定された経緯があって、工業高校生の受検が多く、合格証は、就職活動の際に、自分をアピールする材料になるとのことです。

■実施体制

技能検定の実施・運営は、4つの組織が役割を分担して取り組んでいます。主な役割は表に示す通りです。実際に試験を実施する際には、PVADAが委嘱した技能検定委員が、その実施・運営（準備・実施・採点評価）に大きな役割を果たしています。SESPPで実施している評価者講習、技能評価トライアルでは、このような評価者（技能検定委員）の養成を目指しています。

厚生労働省	中央職業能力開発協会 (JAVADA)	都道府県	都道府県職業能力開発協会 (PVADA)
<ul style="list-style-type: none"> 技能検定基準と細目の作成 試験問題、採点基準等の認定 試験合否基準の決定 合格証の交付（1級以上） 	<ul style="list-style-type: none"> 技能検定の基準と細目に基づいて試験問題を作成 実施要領、採点基準の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 受験手数料の設定 実施計画の策定 実施公示 合否決定、合格発表 合格証の交付（2級と3級） 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者募集、受付 受験手数料徴収 技能検定委員等を委嘱し、試験実施 試験の合否判定

■実技試験の特徴

技能検定は、学科試験と実技試験で実施されています。実技試験の特徴は、減点法で採点・評価をすることです。併せて、作業態度や作業時間も減点法で採点・評価をし、60点以上が合格となります。ASEAN諸国の研修生にとっては、減点法での採点・評価は初めての経験で、大変興味をもって学んでいます。

■合格率

合格率は職種によって違いはありますが、平均すると3級で約60%、2級で約30%、1級で約35%です。2級以上の試験は、ベテランの作業でもかなり練習と学習をしないと合格できません。そのため、合格証はそれだけ価値があり、合格者を処遇している企業が多くあります。また、技能検定受検を従業員の能力開発に取り入れている企業も多くあります。



講義をされる稲川氏

□「本邦研修」研修プログラムと受講生の声

◆研修プログラム ※シーケンス制御 [5日間コース]

講義 (4時間)	技能検定試験 職種の概念・基準と細目 学科試験問題解説 ペーパー試験問題解説
講義・実習 (3時間)	基準と細目に基づく実技試験問題解説 採点要領・動作チェックシートの解説
講義・実習 (4時間)	作業手順書による実技試験問題演習
講義・実習 (14時間)	実技試験問題の作成要点、作業要素一覧 実技試験問題作成演習 (オリジナル課題作成)
講義・実技 (7時間)	実技試験問題作成演習 (オリジナル課題作成) 動作チェックシート作成、チェック項目の検証
講義 (6時間)	オリジナル課題のデモンストレーション アクションプラン作成・発表、総括



研修終了後の集合写真 (写真左より)

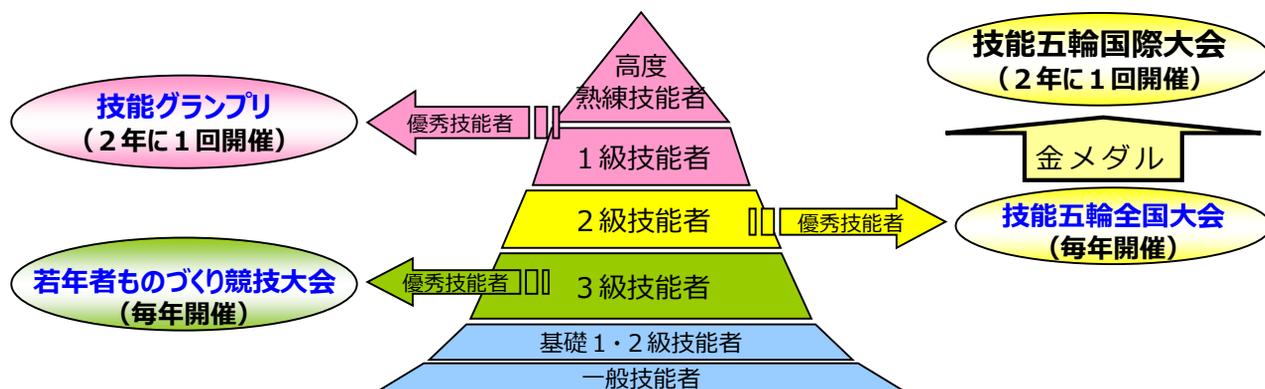
ベトナムからの受講生
Nha Trang College of TechnologyのHieuさん、
DVETのHoiさん
職業大の安原先生
カンボジアからの受講生
MLVTのSidanさん、NTTIのTouchさん
PPIのVohaさん、NPICのPanhaさん

●二週間に渡って本邦研修に参加をされたベトナム・カンボジアの受講生の声をお届けします。

- ・自国の国家技能検定の社会的評判を高めていきたい。
- ・帰国後の講義や学生への試験への評価に役立てたい。
- ・研修期間をもっと長くして欲しい。
- ・同僚の先生方や生徒たちに今回の研修で得た知識と経験を共有したい。
- ・更に一級や特級の研修、他の職種の研修を行って欲しい。
- ・評価のための基準、試験問題、評価者、機材などの整備が必要と感じた。

コラム：日本の技能競技大会は？

日本では若者の就業意欲の喚起や円滑な技能継承に資するため、技能レベルによって各種技能競技大会が開催されています。青年技能者（原則23歳以下）の技能レベル日本一を競う『技能五輪全国大会』。職業能力開発施設や工業高等学校等で技能を習得中の若年者（原則20歳以下）を対象とした『若年者ものづくり競技大会』。優れた技能を有する1級技能士等が年齢に制限なく参加し、文字通り熟練技能を競う『技能グランプリ』があります。各種技能競技大会と技能レベルは以下をご参照ください。



□ 研修レポート

■ ベトナム（ホーチミン）でのフライス盤3級の評価者講習、トライアル

ベトナムでは南部（ホーチミン）での事業展開を始めており、今年度は新たにフライス盤3級の技能評価者講習と技能評価トライアルをホーチミン技術職業短大（HVCT）で実施しました。フライス盤は2018年5月に国家検定化した職種でもあり、今後は南部でも認定評価者の誕生が大きく期待されている職種でもあります。

評価者は研修会場のHVCT以外にもホーチミン市職業短大、航海職業短大、ビンロン技術師範大学から選抜された講師9名。研修を担当いただいたのは高畑 規正 氏（トヨタ自動車）で、ハノイのフライス盤の研修でもサポートを頂きました。高畑氏からは「南部では既に旋盤の研修が先行し、評価者の約半数が旋盤の受講経験者だったこともあり、初心者とペアを組ませることで、スムーズな研修が行えた。積極的に行動してくれる場面も多くみられ、トライアルの運営面で改善を提案いただくなど、意欲的に受講をいただいた」と今後のホーチミンでの評価者認定に向けて、期待が持てる内容となりました。



高畑先生のデモンストレーション



評価者講習の様子



トライアル（実技試験）の様子

また、高畑氏より以下のアドバイスを頂戴しております。

旋盤はベトナム国内でも広く普及している一方、フライス盤を保有する施設は少ないです。

今回の使用した機種は、剛性が弱く、重切削が困難でしたが、使用機種に合わせた加工方法の検討をするためには、評価者のレベルアップが重要です。

次回の評価者講習では、評価者に実際に課題を製作してもらい、作業レベルの極め、加工についてのアドバイスができればと考えています。

また、同様に、工具の限界に近い加工をしなければ、時間内に完成させることが難しい設定となっています。

試験切削や工具に対する勉強を実施する時間を設け、レベルアップの方法を伝えたいと思います。

トライアル運営だけでなく、準備の大切さ、加工の楽しさ、難しさを経験する事で、ベトナム国内での認知度向上、すそ野拡大に繋がればと思います。

発行：SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階
TEL：+81-3-6737-9263 FAX：+81-3-6737-9266

担当：増沢・近藤・風見

E-mail：sespp@jtb.com